

岩手県公立学校退職校長会

盛岡会だより

第227号



■発行年月日：令和7年10月1日(水)
■発行：岩手県公立学校退職校長会盛岡地区会
■事務局：☎020-0108 盛岡市東黒石野
■印刷所：(有)セーコー印刷 盛岡市下ノ橋町2-23

代表 吉川 健次

TEL 019 (651) 3606

私のライフワーク メンタルハイモニーに魅せられて

第34班 大橋 文四郎

私には、半世紀にわたり取り組み続けていることがある。それは、合唱指揮・指導である。

私が合唱に出会ったのは、高校の音楽部に入部した昭和44年。昭和30～40年代は、優れた合唱曲が次々に世に出された黄金期で、合唱曲の魅力に取りつかれた私は、大学でも合唱団に所属し、合唱活動に打ち込んだ。

大学の合唱団で、学生指揮者に指名されたことが契機となり、教職に就いた後も指揮者としての活動は続いた。

初任地の水沢市では、水沢混声合唱団を指揮する機会に恵まれた。初任3年が過ぎ、盛岡市への転勤となったが、水沢混声合唱団との関係は継続し、毎週土曜日、高速道路を利用して水沢へ赴く日が続いた。しかし、仕事や家庭環境の変化に伴い、水沢での継続的な合唱指導は次第に難しくなり、足掛け10年ほどで後任に後を託した。

その後、大学時代の友人から声を掛けられ、今度は、盛岡市の都南混声合唱団で合唱指導をする機会をいただいた。就任から35年が経過した現在も、都南混声合唱団との活動は続いている。

昭和48年に初めて指揮台に立って以来、合唱指導・指揮は、私の大切なライフワークとなっている。合唱は、複数の人間がいくつつかの声部に分かれて歌う



演奏形態であるが、たくさんの声が重なり・溶け合うことで生まれる深みのある響きは、合唱を愛する人々の心を驚つかみにして離さない。合唱の喜びは、みんなで歌い、声が溶け合う深い響きを耳と心で感じ取ること、そして、そのことを団員相互が共有し合うことにあると思っている。このような魂の共鳴を、私はメンタルハイモニーと呼び、その実現こそ、私が目指す究極の目標である。

理想は崇高ではあるが、現実はそう甘くはない。私は古希を過ぎ、団員は、平均年齢が後期高齢者の域に達している。声がかすれる、息が長く続かないなど、高齢化からくる悩みも日々深刻化してきている。それでも、毎回の練習を生き甲斐にして通ってきており、定期演奏会などのステージでは、生き生きとした演奏を聞かせてくれている。

合唱団員の歌声は、指揮者への最高の魂のプレゼントである。指揮棒を振り始めて50年過ぎる今も、合唱指揮を止められない所以である。指揮活動を続けていることについては、もう一つ、大きな理由がある。それは、「ボケ防止」である。指揮者は、曲のテンポ、強弱、表情、4つの声部の重なり具合や旋律の流れなどを瞬時に判断して、音楽を創り出していく。そのために、楽譜を見る、音を聞く、左右の手の振りの役割に応じて振り分けるなど、たくさんの情報を脳内で一度に処理しなければならず停滞は許されない。指揮者は、ボケてなどいられないのである。

指揮者は、団員に認められてこそ指揮者たり得る。己が団員に生かされているという感謝の気持ち忘れず、こたくなく、これからも指揮棒を振り続けていきたい。

令和7年度
岩手県公立学校退職校長会盛岡地区会
日本教育会岩手県支部盛岡地区会

合同研修・親睦会

・期日 令和7年7月1日(火)
・会場 サンセール盛岡

参加者121名

1 研修会開会行事

進行 岩手県公立学校退職校長会盛岡地区会

総務部長 熊谷 幸一

(1) 開会の言葉

同 副会長 菅原 壽

(2) あいさつ

同 会長 吉川 健次

今回は、山中俊介弁護士様にご講演をお願いしております。学校現場で起こるいろいろな事にどう対応するか、具体的な事例が参考になることと思います。

ところで、ご参加の校長先生方へお願いします。60歳の役職定年の時期に退職校長会への加入のご案内を差し上げますので、どうぞ加入なさって私達と一緒に活動して参りましょう。よろしくお願いいたします。

また、ここ数年市内の小中学校へ絵本の贈呈をしております。今年度は小学校へ贈ることになっていきます。ささやかではありますが、子供たちへの平和について考えるきっかけ作りになればと考えております。

(3) 祝辞

盛岡市教育委員会

教育長 多田 英史様

2 講演

進行 岩手県公立学校退職校長会盛岡地区会

研修部長 篠田 宜道

(1) 講師紹介

日本教育会岩手県支部盛岡地区会

会長 有馬 賢

山中俊介氏は、昭和46年生まれで岩手県盛岡市出身。最終学歴は平成19年3月、東北大学大学院法学研究科総合法制専攻(法科大学院)卒業。平成20年、岩手弁護士会に弁護士登録。現在、岩手弁護士会副会長、岩手県いじめ問題対策委員会委員をされている。

(2) 講演

演題 『スクールロイヤーが行う学校の

トラブルへの後方支援の実情』

講師 山中法律事務所

弁護士 山中俊介氏

ア 自己紹介

私は平成20年に弁護士登録をしました。法科大学院の一期生でしたが、大学院に入る前の7年間、岩手県庁に勤務しておりました。

岩手弁護士会には委員会がいくつかありますが、その中の一つに子供の権利委員会があり、少年事件との関わりで裁判所と互いに内容を交換しています。いじめに関して、第3者委員会に弁護士も入りましようということでは学校との距離が縮まっています。平成29年、岩

手県いじめ対策委員会で2件ほど県立学校と関わっており、事実認定が非常に大切であることを感じていました。

こういう経緯で、スクールロイヤーになって3年目となります。

イ スクールロイヤーとは

近年教育現場では、子育て環境の変化や学校に対する保護者の意識の変化等により、虐待やいじめ、学校や教育委員会への過剰な要求が増えていきます。このような中、子供の最善の利益を最優先として、スクールロイヤーに関わってもらうことで、事案の未然防止や速やかな初期対応による問題解決につながったり、教職員の負担軽減が図られたりすることが期待されます。

弁護士会の子供の権利委員会に対して学校から弁護士への派遣要請もありました。いじめに関わることには法令に基づく対応の徹底が求められ、日弁連でも子供の最善の利益を念頭に置きつつ、教育や福祉等の視点から継続的に支援を行うことを提言しています。

令和4年『教

育行政に係る法務相談体制構築に向けた手引き』(文科省)によると、スクールロイヤーの仕事として次の4点を挙げています。①学校からの相談を受け法律に基づいた助言や指導を行



ご講演なさる山中俊介氏

う、②保護者との面談への同席、代理人として調整や仲介を行う、③研修（教職員向けの研修を行い法的な知識や問題解決能力の向上を図る）、④出張授業。

現在の私の仕事は①と③で、②は入っていません。代理人をやるといふのは民事の方からきているもので、よっぽど端的な事例以外に弁護士が代理人として出るのは難しく、学校のトラブルに弁護士が入っていくのは難しいと考えています。

最近の例（立川市の小学校への侵入事件）から見ると、代理人として保護者とのやり取りは必ずうまくいくとは限らず、表に立つのは難しいと思います。私としては後方支援の立場で対処したいです。

ウ 盛岡市のスクールロイヤーへの相談の流れ
教育委員で取りまとめたものをスクールロイヤーへ相談という形で行っています。方法としては弁護士事務所面談、またはメールでの相談がありますが、メールでの相談が半分以上を占めます。

相談内容としては、開示請求への対応、地域での児童の迷惑行為を学校に何とかしてくれということへの対応、いじめの重大事態への対応、学校徴収金について誰が何の名目で集めているのか、支払わない人がいる場合どう穴埋めをしているのか、破産の申し立てにどうやって取り立てするのか等で、保護者対応が7/8割を占めています。

いじめ問題への対応については、学校が矢面に立つというよりも市教委へ相談です。しんどい事案では、言った言わないの話で、首にしろという要求がありました。相手は自分が正しいという前提で主張するので、や

り取りは録音を取るのが絶対に良く、記録が必要ですが。また、回答を聞くまでは帰らないという保護者に対しては、後で対応するので今はお帰りくださいという対応で可です。ほとんどの相談に対して私は、大丈夫ですからやっつけてくださいという答えをしています。

エ 学校の負う法的義務

契約と不法行為の関係から生じる雇用における安全配慮義務があります。学校と生徒の関係において、事故の発生を防止するために十分な措置を講ずるべき注意義務が当然あるべきというものです。いじめの場合では学校に対して求める安全配慮義務違反という判決例もあります。

またここ最近、安全確保義務というものが出てきました。東日本大震災津波で大川小学校の児童・教職員が犠牲になった事故での学校側の避難行動に関する責任を問われた裁判で、安全確保義務違反が認定されたものです。

他にも要支援児童を把握した時報告する義務や、虐待を見つけた場合報告する義務等いろいろな義務があります。

オ スクールロイヤーの存在意義、活用のしかた

スクールロイヤーはコンプライアンスの観点でのアドバイザーで、事が起きてからの相談でよいのです。スクールロイヤーの存在意義は、用心棒的なもの、いざという時に守ってくれる弁護士という関係性はなくアドバイザーをしてくれる存在です。

学校現場では、うまくいかないことが起きてもその場その場で判断することが多い毎日が続いており、萎縮して物を考える力が低下することがあると思えますが頑張っ

い。文句を言われる場合、違法性があるかと言うとそうでもないことが多いので。裁量の範囲として許されることが多いのです。子供に対して毅然とした態度を取らなければならぬ場合があります。自信を持って全体のルールを守るため、ドンとした態度で職務にあたってほしいと思います。スクールロイヤーとして支援し、背中を支えていく立場でいたいと思います。

(3) 謝辞

日本教育会岩手県支部盛岡地区会
副会長 及川 公子
3 閉会の言葉
高等学校校長協会盛岡支会
会長 嶋 隆

親睦会 参加者104名

研修会終了後、6時から日本教育会岩手県支部盛岡地区会並びに退職校長会盛岡地区会合同で、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、行政からたくさんご参加いただき、親睦会が盛大に行われた。

現職の校長、副校長、主幹教諭の参加も得て、小中高の枠を越えて皆さんで大いに語り合い、楽しい時間を過ごすことができ、有意義な親睦会となった。



親睦会のようす

令和7年度 子供たちの心に光を 『平和を考える絵本プロジェクト』

今回で4年目を迎える平和を考える絵本プロジェクトは、今年度も継続して取り組む。

1 趣旨

2022年2月からロシアによるウクライナに対する軍事攻勢が続き、今もロシア軍によるウクライナの重要インフラへの攻撃が激しく行われ多くの市民の命が奪われている。

3人に2人の子供たちが家を失い、家族が分断され避難を強いられている。停戦に向けての動きもあるもののウクライナ各地で続く紛争は終わりが見えないままである。

このような状況の中、私たち岩手県公立学校退職校長会盛岡地区会ではこの3年間、ウクライナ民話・絵本『てぶくろ』『戦争が町にやってくる』『ぼくのこえがきこえますか』そして『戦争をやめた人たち』を市内小・中学校に配付してきた。

今世界の紛争地域で暮らす子供たちは4億人いると言われている。これは世界の子供たちの5人に1人にあたる。戦争で最も被害を受けるのは子供たちである。

私たちは今後も同様の事業を継続することで「多くの人に寄り添い、平和な社会の実現に近づく一歩」になることを信じてともに、盛岡の子供たちの心に光を当て輝く未来につながることを願うものである。

2 事業内容

平和を考える絵本

「せんそうがおわるまで、あと2ぶん」

(ジャック・ゴールドSTEIN作、長友恵子訳)を盛岡市内小学校41校と関係機関2団体に贈呈する。



(合同出版発行2023年)

【絵本の内容】

ジュールとジムは、同じ日に同じ村で生まれた幼なじみ。第一次世界大戦が始まり、二人は戦争に行きます。しかし、戦場は壮大で輝かしいものではなく、泥まみれで惨めなものでした。いよいよ戦争を終わらせることは決まりましたが、11月11日11時、その時までジュールとジムは戦場へ出向くことを命じられます。

そして――
実際の出来事から着想を得られて作られたシンプルなメッセージが深く心に残る絵本です。

3 事業予算・贈呈数

会員の皆様から集めた募金を購入経費に充てる。予算額は157,295円である。今年度は、たくさんの予算を活用して、小学校に各1冊ではなく、学校規模(学級数)に応じて1冊から4冊と幅を持たせた贈呈数とし、平和教育の推進に力を入れる取り組みにした。贈呈数は、各小学校へ75冊、

教育事務所・教育員会へ2冊の計77冊である。なお残金の4,835円は次年度への繰り越しとする。

4 贈呈式

8月25日(金)に贈呈式を行った。当日は、吉川健次会長、菅原壽副会長、熊谷幸一総務部長他盛岡地区会理事4名の計7名が出席した。

盛岡市遺跡の学び館で開催された「盛岡市小学校長会研修会」の席上において本会の吉川健次会長から事業趣旨を説明し、「全校朝会や学級指導等で活用し、子供たちが平和について考えるきっかけ作りをしていただきたい。今年度もこれまで以上の活用をお願いしたい。」と盛岡市小学校長会会長の有馬賢氏に対して絵本を贈呈した。

有馬賢会長からは、退職校長会で取り組んできた絵本プロジェクトへの感謝の気持ちが出来たら「この熱い思いを受け継ぎ、各校で全校朝会や図書館の閲覧コーナーで子供たちが手に取るよう工夫していきたい。」とお礼の言葉があった。

当日は、岩手日報社の取材もあり、9月5日付の紙面で紹介された。

また、後日盛岡市教育委員会及び盛岡教育事務所を訪問し、絵本の贈呈と経緯の報告を行った。



有馬小学校長会長(左)と吉川会長

おしらせ板

■令和7年度 研修・慶祝会のご案内

〔日時〕 11月15日(土)

13時30分から

〔会場〕 サンセール盛岡

〔研修会〕

演題 「人生100年時代こころ豊かに生きるく百寿者たちの知恵と経験に迫るく」

講師 盛岡市立愛宕山老人福祉センター所長

高橋 昭三 氏(2-2班)

〔慶祝会〕 15時から

慶祝招待者

◎上寿

宇部 哲夫 様(1班)

◎米寿

(7名)

佐瀬 壽朗 様(2-1班)

駿河 隼雄 様(7班)

浅沼 清昭 様(13班)

後藤 昌弘 様(14-2班)

千葉 廣 様(17-1班)

立花 敏勝 様(30-3班)

小山 尚元 様(34班)

◎喜寿

(11名)

岩田 俊雄 様(1班)

熊谷 幸一 様(2-1班)

金子 友恵 様(2-1班)

小沢 一昭 様(11-1班)

吉田 妙子 様(11-2班)

川村 久子 様(12班)

菊池 市高 様(23班)

四井 謙吉 様(28班)

成田 春江 様(28班)

高鷹 賢司 様(31-2班)

佐藤 恭孝 様(35班)

◎叙勲

・春の叙勲(瑞宝双光章受賞)

磯田 望 様(24班)

相模 貞一 様(24班)

※秋の叙勲受章者にもご案内申し上げます。

■令和7年度

「いわて教育の日」のつどい

〔期日〕令和7年11月10日(月)

〔会場〕 トーサイクラシックホール

(岩手県民会館) 中ホール

* 制定20周年記念誌を作成しております。

編集後記

吹き抜ける風や空の色に秋を感じる日々の中、今起きている地球の温暖化や争いのある世界は未来を生きる子供たちへの負の遺産として残してはならないと、心から思います。そして、本会で続けている絵本プロジェクトが平和教育の一助になるよう期待がふくらみます。

巻頭言「私のライフワークメンタルハーモニーに魅せられて」は、大橋文四郎氏の50年以上に及ぶ合唱指揮・指導を通して豊かな人生を過ごされていることに感服いたしました。

「おりおり」では、感動の一瞬一瞬を切り取られるカメラマンの吉田妙子氏、シアトルでお孫さんたちと楽しく快適な夏を過ごされた佐藤精晋氏、お二人の感動がしっかりと伝わってきました。

玉稿をいただきました皆様にご心より感謝申し上げます。